

7 その他全般的事項

<経営学部 心理経営学科>

(1) 設置計画変更事項等

該当なし

認可時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
記入例) ① 修了要件単位数 1 2 4 単位 必修科目〇〇単位, 選択科目〇〇単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室 (〇㎡) b 自習室〇室 (〇㎡) c 図書〇〇冊	① 学生の専門性をより高めるため, 必修科目 (1 科目・2 単位) を追加。(別添〇「新旧対象表」参照) ② 学生の修学環境を改善するため, 講義室, 自習室をそれぞれ〇部屋 (〇㎡) 増やすとともに, 図書も〇〇冊増書した。

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で, 設置認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し, それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)
 ・ 「事前伺い」により設置された学部等については, 当該項目を記載する必要はありません。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD活動含む)

① 実施体制 a 委員会の設置状況 経営学部では, 教員の資質の向上, 授業改善について教務委員会で所掌しており学部独自の資質向上を図っている。また, 全学的な「ラ - ニングメソッド研究会」についても学部の教務委員会が主体となり, 実施している。 ※学部教務委員会規程 b 委員会の開催状況 毎月1回開催しており, ほぼ全員の参加がある。 c 委員会の審議事項 学事歴, 授業科目の編成, 教育施設, 授業運営 全学的な内容としては, 「ラ - ニングメソッド研究会」等のFD関係についても審議している。 ② 実施状況 a 実施内容 (ア) 「全学研究発表会」 教員個々の専門の総合化や専門を超えた研究方法や研究基盤の確立を目指し, 総合的な活性化を図る目的で毎年実施しており, 平成23年11月30日に開催した。 (イ) 「ラーニングメソッド研究会」 「ティーチングメソッド研究会」は, 全学的に毎年実施している研究会で, 教員が授業の改善方法を発表する内容となっている。平成23年度より, 「ラーニングメソッド研究会」と改名し, 平成23年度は平成24年1月25日(水)に実施した。 (ウ) 教員相互の授業参観 毎年, 後期に専任教員の担当授業で実施。 b 実施方法 (ア) 「全学研究発表会」 ・ 期日等 平成23年11月30日(水) 14時40分～17時40分 ・ 内容 基調講演「理想のがん医療を目指して」 発表テーマ 「メディアアートの技術的進化と芸術作品の普遍性に関する考察」 「アンチファンのスポーツスポンサーシップに対する反応」 「アーキテクチャ・ベースの戦略論と競争優位の源泉」 「シンガポール株式会社」における企業経営戦略へのインプリケーション」

(イ) 「ラーニングメソッド研究会」

- ・ 期日等 平成24年1月25日(水) 14時40分～17時55分
- ・ 内容 講演「大学で参加型授業を実現するために～ワークショップやファシリテーションの応用～」
個別発表 教員2名(各々関連する学生1名の発表)

ファシリテーションについての外部講師の講演の後、教員による授業方法や取り組みについて発表を行った。
また、学生による授業についての発表もあり、活発な意見交換も行われ、有意義な内容であった。

(ウ) 教員相互の授業参観

参加可能授業を配布して、相互に授業を参観する。参観後レポートを作成して担当教員に提出して授業改善に役立てる。

c 開催状況

「全学研究発表会」「ラーニングメソッド研究会」については、全教員参加の全学的行事と位置付けられている。
特別な出張等がある場合を除いて全員参加となっている。

授業参観は、後期開講授業について実施しており、教員全員に参観を義務付けている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

「全学研究発表会」については、他分野の内容に触れ、個々の専門分野の研究に活用することを目的としている。
研究の質の向上が教育活動の活性化にも効果が期待できる。

「ラーニングメソッド研究会」は、文字通り授業改善を図るための発表会であり、効果的な授業方法について、
他の教員の方法をしる絶好の機械となっており、授業運営の向上に役立っている。

また、関わった学生が意見を述べるスケジュールも盛り込まれており、受益者である学生のニーズも把握できる
内容となっている。

授業参観は、教員同士で他者評価を行うことで、直接的な向上策となっている。まだ2年目であり、効果が顕著に
表れてはいないが、今後期待できる方策と考えている。

このような取り組みを組み合わせることで、相乗的な効果を得られるものと考えている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 平成12年度から毎年1回実施している。実施時期は前期または後期に固定していたが、平成19年度からは前
期・後期交互に実施するように改め、現在に至っている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ アンケート結果に基づく集計資料(5種類)を教員個々に配付するとともに、学部長には所属学部教員分、
学長には全教員分の集計資料を配付している。また学生に対しては、集計結果資料から導き出される「学生
満足度」の数値を年度末に公表し、次年度の授業選択に活かせるようにしている。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

- ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学では、学科及びコースの選択は2年次生より行うことになっており、学科設置の初年度に当たる平成24年度
5月1日現在では、学生の把握はできていない。新入学の段階では、オリエンテーションにおいて、学科の特色を示し
今後の履修方法について、入学年度別にガイドブックを作成し、指導している。

ガイドブックでは、学科に組み込まれた「ビジネス心理学コース」「スポーツ心理学コース」の概要や主な科目
と内容、履修するうえでの教員からのアドバイスを示し、学科の趣旨を学生にわかりやすく説明している。
その説明に加え、コースの科目体系図を示し、学部や学科の教育体系である基礎教育科目、
学科共通科目、学科専門科目の中での心理経営学科のコース科目の関連や履修の仕方を理解させるとともに、
系統だった履修ができるように指導しており、入学初年度より、他の教育内容と比較しながら履修していけるように
努めている。

このような取り組みの中で、学生に対して学科の趣旨や目的に沿った教育が受けることができると考えている。

この指導方法は、全教員が共有しており、クラス運営や各授業の中で生かされており、様々な機会を通じて
学科の教育目的の理解を深めることができると自負している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・ 平成20年6月 公表

b 公表方法

- ・ 大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成27年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受けることが、学内で承認されている。

（注）・届出時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

- ・「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

（4）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期） (平成24年8月)